

太陽HD、事業多角化へ水上太陽光発電事業に注力 工場での電力自家消費用設備も導入

太陽ホールディングスは、埼玉県比企郡嵐山町で水上太陽光発電所の運営を手がけている。同社が目指す事業ポートフォリオの多角化に向けた取り組みの一環となる。今後もほかの地域での水上太陽光発電所の運営などを含め、様々な再生可能エネルギーの事業実施の可能性を検討・模索している。一方で太陽ホールディングスは、工場における電力自家消費用の水上太陽光発電の設備も新たに導入した。

太陽ホールディングスは、子会社の太陽グリーンエネルギーを通じて埼玉県比企郡嵐山町で出力約1,150kWの水上設置型メガソーラーを2015年より運営している。発電した電力は、固定価格買取制度を活用して東京電力へ売電している。同社の発電所は、町が所有する嵐山花見台工業団地内の調整池に、太陽グリーンエネルギーが町より池を賃借して建設された。発電所の設置面積は約1万3,300㎡。年間発電量は約134万kWhを想定している。パネルは京セラ製、またパネルを水上に浮かべるための架台は、フランスのシエル・テール社製を採用している。発電所建設には約4億5,000万円が投じられた。

環境省の補助活用し 自家消費設備導入

さらに太陽グリーンエネルギーは、2017年12月にも新たに水上太陽光発電

所を稼働させた。この設備は売電ではなく工場内の電力自家消費向けのシステムとなっており、太陽インキ製造埼玉工場と隣接するため池(大沼)へ、「嵐山大沼水上太陽光発電所」として建設された。出力318kWで、施設の建設に約8,600万円が投じられた。大沼に隣接する太陽インキ製造埼玉工場に接続され、発電された電力は全て工場の運営に自家消費され、工場で使用される総電力の約5%に相当する。この事業は、環境省による再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業による支援案件として採択されている。この発電所ではJAソーラー製のパネルを採用し、フロートは嵐山町の発電所と同様にシエル・テール製を採用した。

太陽光を手がける理由

太陽グリーンエネルギーは、太陽光発



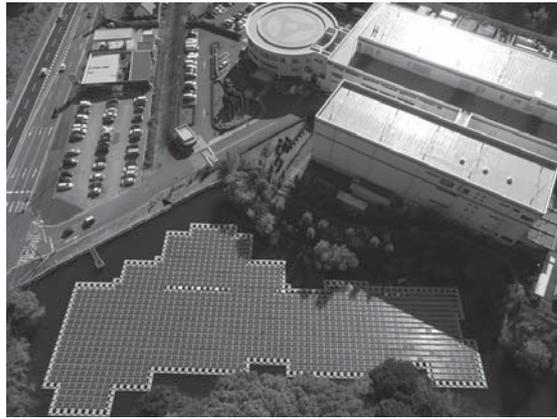
嵐山花見台工業団地内の水上太陽光発電所
(太陽ホールディングス提供)

電事業に加えて、世界人口の増加による食料需要の拡大や、砂漠化による耕作面積の減少等による食料危機への対応策として、植物工場での野菜栽培も行っており、月産200kg程度の葉物野菜などを製造するテストプラントを運営している。太陽ホールディングスは、再生可能エネルギー普及や環境問題への対応に向けた各種取り組みに引き続き注力する。

太陽ホールディングスは、「ソルダーレジスト」における世界で5割以上のシェアを持つ。ソルダーレジストとは、プリント配線板(PWB)の表面を覆い、回路パターンを保護する絶縁膜となるインキのこと。こうした安定した収益源をすでに持つメーカーが、なぜ新たに太陽光発電事業を手掛けることとなったのか。太陽グリーンエナジー代表取締役社長の荒神文彦氏は、「ソルダーレジストの安定した事業がある一方で、同事業による一本足だけでなく、事業を多角化することを目指している」と、太陽ホールディングスの現在の取り組みを解説する。エネルギー、食料分野のほか、太陽ホールディングスでは、医療・医薬品についても新たに事業展開を進める分野と位置づけている。

「環境負荷の小さい再エネ」

また荒神氏は、「水上だから太陽光発電所を建設した」とも説明する。発電所建設にあたり、木々の伐採などの開発行為を伴わず、また水質の保全や



嵐山大沼水上太陽光発電所
(太陽ホールディングス提供)

これまで有効利用されなかったスペースの活用にもつながり、「環境負荷が低い再生可能エネルギー」が生み出すことができるにとらえ、太陽光発電の中でもとくに、水上太陽光発電所の建設を決定したという。また、太陽光発電システムにおいて様々な電子部品が使用されている。この中で太陽ホールディングスは、様々な電子部品向けの部材を取り扱うメーカーとして、実際に事業者となりシステムを使用することで、新たな製品や技術、また利便性や使用感を検証・探索するという目的もあり、自社による発電事業の実施を決定した。



荒神文彦氏

小型木質バイオマス、風力など視野

太陽グリーンエナジーでは、ほかの地域において水上太陽光発電所の建設・運営の可能性を模索しており、とくに2,000kW未満程度の発電所建設について、ため池が多く貯存する西日本エリアを中心に検討を進めているという。さらに同社の今後の再生可能エネルギー分野の取り組みとして、小型の木質バイオマスや小型風力といった、太陽光発電以外の電源の取り組みに関しても実施可能性を検討していく。荒神氏は、太陽光以外の発電事業の実施について、「太陽光と同様に、各機器がどのように使用されたら、より便利になるか探索することも目的」とも説明する。